

オークションにおけるマイクロチップ全頭装着から見てきたこと

一般社団法人 ペットパーク流通協会会長 上原勝三

「本日はオークションにおけるマイクロチップの全頭装着についてお話しさせていただきます。

私は一般社団法人のペットパーク流通協会の会長をさせていただいており、関東ペットパークとB&Bペットパークを運営しています。また、一般社団法人ジャパンケネルクラブの理事、一般社団法人全国キャットクラブの理事、そして犬猫適正飼養推進協議会の登録メンバーとして参加いたしております。一般社団法人ペットパーク流通協会は全国のペットオークション会場の連絡協議会として発足し、2014年1月に一般社団法人ペットパーク流通協会として新たにスタートしました。現在、国内での年間流通頭数は40万頭ほどですが、そのうちの約半数くらいが、北海道から九州まで全国15ヶ所にある加盟ペットパークを通過して流通にのっています。

近年、ペットは家族の一員として迎えられるようになりました。そして社会におけるペットの必要性に対する意識も変化してきました。そのような変化に添えていくためには私たち流通協会が組織をしっかり構築して連携し、ペット業界全体の意識を改変していかないとなりません。ですので月一回、もしくは必要があれば何度でも会議をして問題点をひとつひとつ改善していっています。」

■ペットパーク流通協会の活動内容

「我々の主な活動は大きく3つ、まずひとつがペットの殺処分ゼロに向けた活動です。繁殖業者におけるそこでの問題点として、繁殖に不向きな犬猫、繁殖を引退した犬猫、繁殖者が引退した際の犬猫についての行き先をどうするかが挙げられます。そのような犬猫のために、殺処分ゼロに向けた活動の一環として会員用のシェルター運営をしています。きっかけは、当会のブリーダーさんが病気で犬の管理ができなくなってしまうことが度重なった時期があり、業界自らで管理をしていく仕組みが必要だと思ったことです。運営を始めた当初は犬猫の行き先をどうするか悩んでいたのですが、ブリーダーの方やペットショップの方のご協力をいただき、さらには続けていくうちに命を守るために協力してくださる動物愛護団体も出てきました。」

活動の二つ目は、生体販売会社やブリーダーのレベルを向上するための活動です。

「繁殖業者は専門的な資格制度がなく、登録のみで事業を行うことができていたため、独自の誤った知識のまま繁殖を繰り返しているケースが数々見受けられました。そのため、我々のパークを使用して、獣医師や動物医療メーカー、ペット保険会社の方などにご協力いただき、遺伝性疾患や食事、繁殖学などのセミナーを定期的に行っています。セミナーに参加すると知識が得られるということで会員の皆さんにはとても好評で、最近ではこんなセミナーを開いてほしいといった要望もいただけるようになりました。」

三つ目は、安心・安全・健康な子犬や子猫の流通に向けた活動になります。

「安心で安全、そして子犬や子猫の健康に配慮した流通をすることに対し、一般のお客様から理解していただけるよう努力を続けています。そのために、遺伝子検査による遺伝性疾患撲滅の活動や、パルボウイルス検査などの感染症への対策、狂犬病ワクチンの接種・登録率向上、マイクロチップ普及のための活動などを行っています。これまで我流で管理していた動物取扱業の皆さんの知識を高め、ひいては一般の方々にもご理解いただけるよう活動を続けています。」

三本柱の一つ目、ペットの殺処分ゼロに向けた活動についての具体的なお話しへと続きます。

「繁殖に関わっていた犬猫や、流通にのれなかった犬猫を里親譲渡するための取り組みとして NPO 法人をつくり、COCORO の里をオープンしました。病気がある場合には、手術や治療を行ってから里親に譲渡しています。取り組みを始めて 12 年くらいになりますが、これまでに 15,000 頭くらいを里親となってくれる方に引き渡すことができています。」

さらに、殺処分ゼロに向けた新たな取り組みを 2021 年から開始されています。

「繁殖犬においては、ブリーターの方が飼育できなくなるだけでなく、あまり面倒を見てもらえずに神経質で子犬を食べてしまうような母犬もいて、繁殖に向かない犬が早い段階で出てきてしまう場合もあります。そのような犬や猫たちの譲渡の問題を業界内で解決していくために、里親マッチングサイトの ELIE（エリー）を開設しました。ELIE という名前は、すべての命は平等であるという Every Life Is Equal の英語の頭文字を繋げたものです。

簡単にですが、どのようなシステムになっているかと言いますと、まず、ブリーター側で里親を探したい犬が出てきた場合、その犬や猫の写真を撮って LINE などを使ってデータベースに登録をします。登録が完了すると一斉にペットショップの方へ情報が通知され、その情報をもとにペットショップの方で里親を募集の提示をしてもらうという仕組みです。また、先ほどもお話ししたように、生まれつき疾患を抱えている場合もあります。治療費が高くなかなかブリーダーの方も対応しきれない面もあったのですが、そのような犬や猫に対して治療の希望を出してもらえれば、協会が提携している動物病院で手術や処置を行ってから一般の方へ譲渡するようにしています。このような殺処分ゼロに向けた活動を、今後も一生懸命行っていきたいと思っています。」

■オークションの流れ

「オークション開催の 2 日前までに出品予定の生体情報を連絡していただき、出品の順番を決めていきます。オークションの当日は、生体の確認をしてから、売主の方には一頭ずつ発行されたペットシールをペットボックスに貼るなど出品の準備を進めてもらいます。」

ちなみにペットボックスをオプション使用する際に発生する費用の一部を、ELIE などの里親譲渡のための活動費や経費に充てているそうです。

「持ち込み生体全頭に対して、まず、感染予防のためにパルボウイルス検査をします。陰性の生体のみマイクロチップ装着へと進みます。以前、パルボウイルスに感染した個体に気づかずショップや犬舎に持ち帰り、感染が広まってしまったというケースもありましたので、マイクロチップ装着前にウイルス検査をすることで安全性を高めています。」

オークションに入る前には生体検査も行われます。

「出品するかどうかの判断材料にいただくため生体検査を徹底し、獣医師 2 名による健康状態のダブルチェックを無料で行っています。」

■マイクロチップ全頭装着に関する実証実験について

「実証実験をする意義は、動物愛護法改正に伴うマイクロチップの装着が義務になるため、どのような方法であれば法令を順守できるかについて、時間的余裕を持って、しっかり検討することにあります。そして、実証実験から出てきた問題や課題を徹底的に洗い出し、業界としてどのような準備をしていく必要があるかを検証すること、全国にある15のパークで共通して使えるソフトの開発をするための情報を収集することです。」

実証実験を行うにあたり、チェックすべき3つのポイントがありました。

「オークションが始まる前の短時間で全頭にマイクロチップを装着できるか、というのがポイントのひとつです。オークションは早くても20秒、かかっても40秒ほどで落札されていきますので、その流れについていけるかどうかということです。2つ目の点は、出品生体の情報とマイクロチップ番号を結びつけて流通させることができるか、そして3つ目は、マイクロチップ装着に関連してどのようなトラブルが発生するか。これらの3つのことをポイントとし、実証実験を進めました。」

ここから先の実証実験の方法や結果の詳細については、共立製薬株式会社の福島正晴氏からのお話となりました。

「まず、実証実験のスキームですが、**受付⇒パルボウイルス検査⇒マイクロチップ装着・登録⇒生体検査⇒オークション開始⇒落札⇒マイクロチップ登録変更**、としています。本年6月から施行される法律の主旨からしますと、生体にマイクロチップを装着し、登録を行った上で出品するということになってくると思われますので、それをペットオークションの会場でできるようにスキームを組みました。また、先程のお話にもありましたが、マイクロチップ装着作業などでウイルスの感染が広まらないよう、装着前には必ずパルボウイルスの検査をしてから陰性生体のみにマイクロチップの装着を行います。」

続いてオークション会場での動線についての説明がありました。

「このようなスキームで実証実験を行いましたところ、上原会長のパークにおけるオークションでは通常1回あたり800頭、多いときで1,000頭ほどの出品があり、そこで必要とされる獣医師は7名、獣医師1人あたりの装着可能頭数は100～120頭くらい、1時間で20～25頭くらいになることがわかりました。ですので、今後子犬や子猫にマイクロチップを装着するときにはこの数字を参考にいただければと思います。先ほどもお話ししましたが、装着のスピードは早ければいいというわけではありません。たとえ早く行っても脱落などのトラブルが発生する可能性もでてきてしまいますので、適正なスピード、適正なタイミングでしっかりと打っていくことが重要になるかと思っています。」

2カ所のオークション会場における実証実験では、2020年10月から2021年10月末までの13ヶ月間で累計54,643頭にマイクロチップが装着されました。月に4,200頭、1週間で1,000頭というペースです。

「関東ペットパークの方では、開始当初は獣医師が不慣れなこともあり、脱落や1生体に2本装着してしまうというミスが見られました。しかし、だんだんミスの数は減少していき、現在はそのようなことが完全に起きていないわけではないですが、確実に激減しています。実証実験の結果から、流通の過程でのマイクロチップ装着を週に1回行う場合、獣医師の装着スキルが安定するのに3ヶ月くらいの期間が必要だと考えられます。」

■実験結果から見えてきた課題

「先ほど私の方からもお話をさせていただきましたが、装着前のリーダーでのチェックが甘く、2本目のマイクロチップを装着してしまうことがありました。また、獣医師のスキルによって、装着後にマイクロチップが脱落してしまったり、装着時に動物が動いて針が貫通し、2カ所以上の穴があいてしまったり、獣医師が針を深く刺しすぎるなどして神経や筋組織を傷つけてしまうトラブルがありました。そのほかには、装着後の止血が十分でなく出血が見られるために動物が返却されることもありました。」

これらの課題について上原会長や獣医師スタッフとミーティングを行い、2本装着、脱落、止血、組織障害に対する対策を掲げます。

「重複装着、2本装着についてですが、まず重要なのは装着前のリーダーでのチェックを徹底することになります。しかし、ほとんどの動物にはチップが入っていない状態ですので、ほとんど入っていないものを見つけ出すという作業はどうしても集中力が持続しにくいものです。ですので、ブリーダーの方に、出品時に装着済みであることを申告してもらうことを徹底し、申告していただいたらペットボックスに印をつけるなどして装着済み生体であることをわかりやすくした状態で流通することが必要だと考えています。」

次に、脱落への対応です。

「こちらについても先ほどもお話をさせていただきましたが、装着後に生体の毛をしっかりとかき分けて、リーダーで装着確認を行います。装着直後にチェックするのは当然ですが、あわせて、獣医師の方が生体の健康診断をするときにもリーダーをあてて読み取りのダブルチェックを行い、さらに、落札者が持ち帰る前にも読み取り確認をしてもらうというようにして、複数回のチェックを徹底して行うことが必要になってくると思います。」

そして出血、そして組織障害についての対応です。

「こちら先ほどお話ししましたが、出血がないかどうか時間をかけてチェックをして、場合によっては薬剤を使った止血をしていただくことになります。組織障害を防ぐには、針を体と水平に入れることが重要なのですが、もし動物が動いてしまってやりにくい場合には必ず別の人に保定を依頼することで対応いただくことになります。そのためには獣医師の方だけでなく、看護師のスタッフが別途必要となってきますので、今後、流通の過程での装着を希望される場合にはスタッフの準備も同時に行っていただく必要があると考えています。」

福島氏からの実験検証結果についてのお話はここまでで、上原会長からのお話に戻りました。

「マイクロチップ装着の義務化は本年6月からになりますが、各事業者が装着と登録を行い販売するのはとてもハードルが高いのではないかと思います。オークションの流れでマイクロチップの装着・登録、そして登録変更まで一括でできるようになれば、ブリーダーの方やペットショップの方の負担を大幅に減らすことができますし、間違いなども起こりにくくなると思っています。現在オークションでは出品生体だけでなく、希望があれば会員のブリーダーの方の繁殖犬へのマイクロチップ装着も開始しました。オークションが落ち着いた時間帯に、母犬への装着と登録を始めたところです。」

■法施行に向けた提言

「先ほども申しましたように、ブリーダーやペットショップにとって販売前に全頭のマイクロチップ装着や登録、そして販売を行うのはかなりハードルが高いことです。また、マイクロチップの装着におけるトラブルは、非常

に低い確率にはできるものの完全にゼロにすることは難しいと思っています。装着に慣れるまでの期間はトラブル発生率が高いというデータを紹介しましたが、保定方法や装着方法によって変わってくる面もあると思いますので、十分に経験を積んだ獣医師の方に指導をあおいで事故を少なくしていただきたいと思います。装着に関連するトラブルについては、誰がどれだけ補償するかなど、補償の枠組みを作っていく必要もあります。

法律の施行に向けての提言になりますが、オークションでマイクロチップの全頭装着と登録を行うことで、法令順守を遂行しながら業者の利便性とトレーサビリティの確保を実現していく必要があると思っています。そして法令を順守するためには、日本のペット業界の中で流通の半分以上に携わるオークションという場での管理は必須であり、そこから業界全体で法令をしっかりと順守していくことで、社会に必要な業界として皆さんに理解していただける機会にもなるとと思っています。私からは以上になります。ご清聴ありがとうございました。」

オークションにおけるMC全頭装着

上原勝三

自己紹介

上原 勝三

一般社団法人 ペットパーク流通協会 会長
関東ペットパーク／B＆Bペットパークの運営
一般社団法人ジャパンケネルクラブ 理事
一般社団法人全国キャットクラブ 理事
犬猫適正飼養推進協議会 登録メンバー



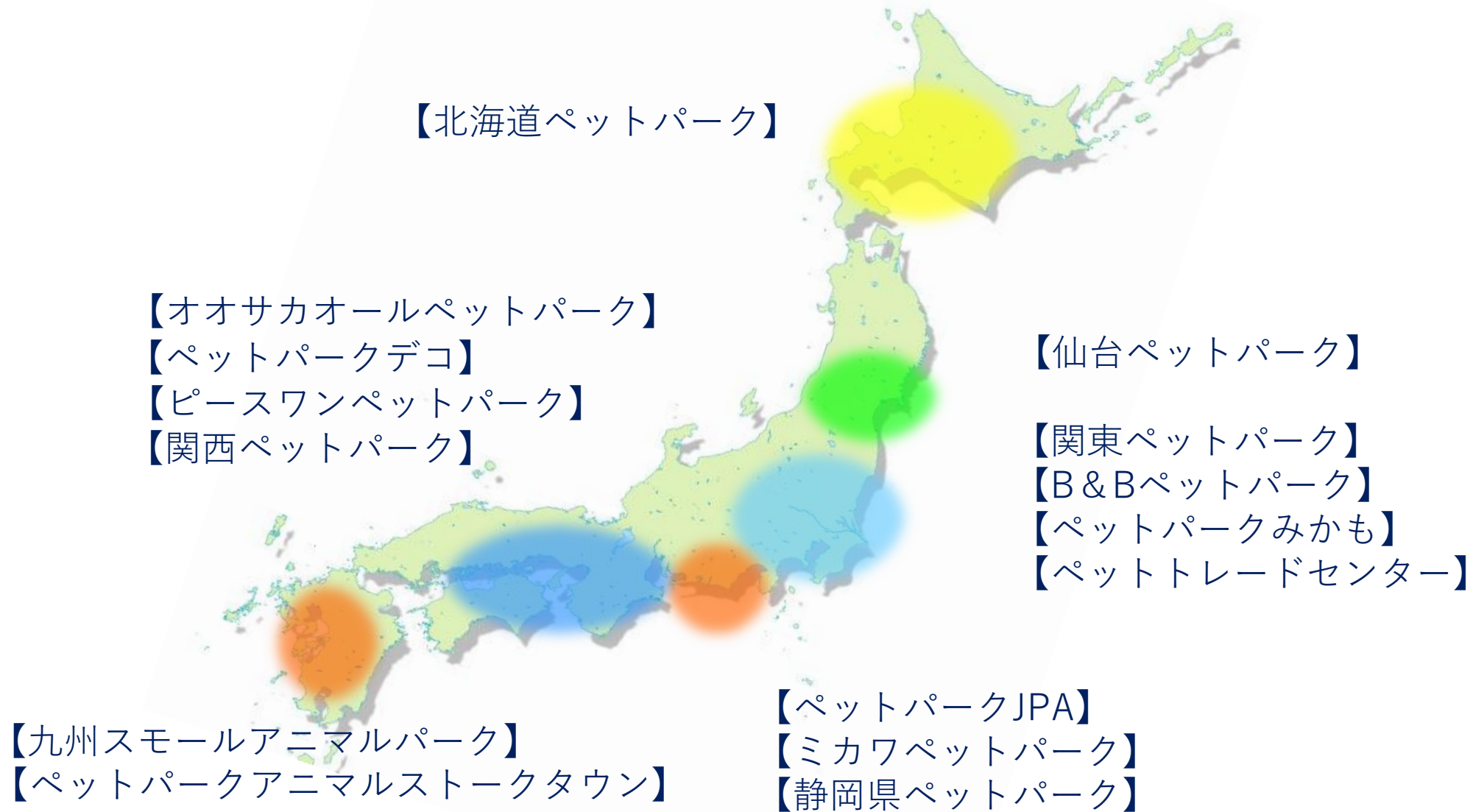
一般社団法人ペットパーク流通協会紹介



人と動物の豊かな共生生活を目指して
一般社団法人 ペットパーク流通協会



一般社団法人ペットパーク流通協会



ペットパーク流通協会の活動内容

- ・ ペット殺処分ゼロに向けた活動
 - ⇒ シェルター建設支援や運営、ペット事業者へのレスキュー活動
里親を募る事業
- ・ 生体販売会社・ブリーダーのレベル向上に向けた活動
 - ⇒ 定期的な会員向けセミナーの開催、繁殖者教育・研修制度の構築
- ・ 安心・安全・健康な子犬・子猫の流通に向けた活動
 - ⇒ 遺伝子検査による遺伝性疾患撲滅のための活動
出品前のパルボウイルス検査など感染症対策
狂犬病ワクチンの接種および登録の向上への活動
マイクロチップ普及活動

里親譲渡の取り組み（COCOROの里）

ペットシェルターの支援・運営により、約15000頭以上を譲渡



里親譲渡の取り組み（ELIE）

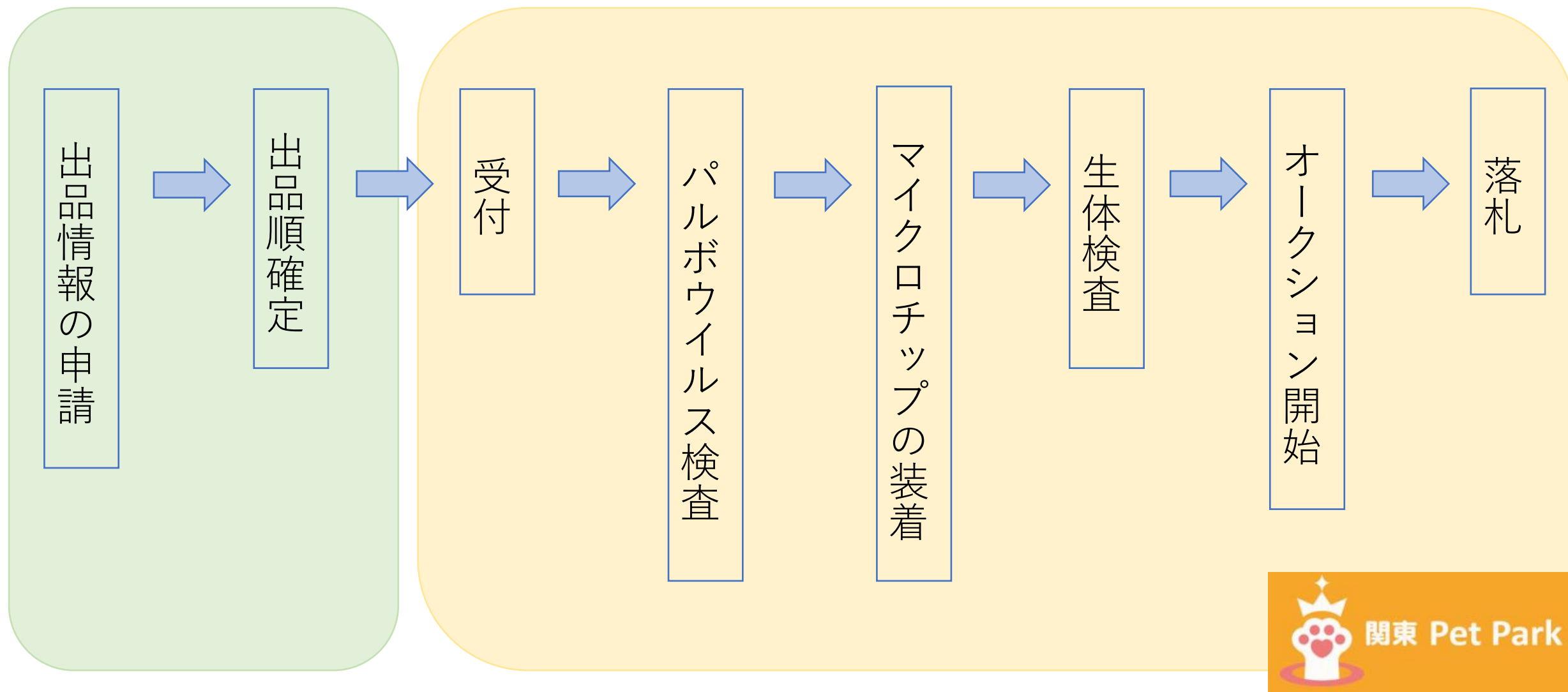
里親マッチングサイト ELIE（エリー）の運営 2021年～





関東ペットパーク／B&Bペットパーク

オークションの流れ



オークションでの検査



～パルボウイルス検査～

感染症対策として
オークションの生体全頭に
対してパルボウイルス検査
を実施



オークションでの検査



～生体検査の徹底～

獣医師による事前検査
生体1頭に対し獣医師2名に
よるダブルチェックを実施

マイクロチップの全頭装着に関する 実証実験

実証実験の意義

- ・ 動愛法改正に伴うマイクロチップの装着義務化にむけて、法施行前にオークションでの全頭装着という実証実験を行うことでどのような方法であれば法令順守できるしくみを作れるか検討する
- ・ 実証実験を自ら実施することで、どのような問題や課題が出てくるかの洗い出しを徹底して行い、業界としてどのような準備をしていくことが必要かを考える
- ・ パーク共通で利用できるソフトの開発を行うために必要な情報を収集する

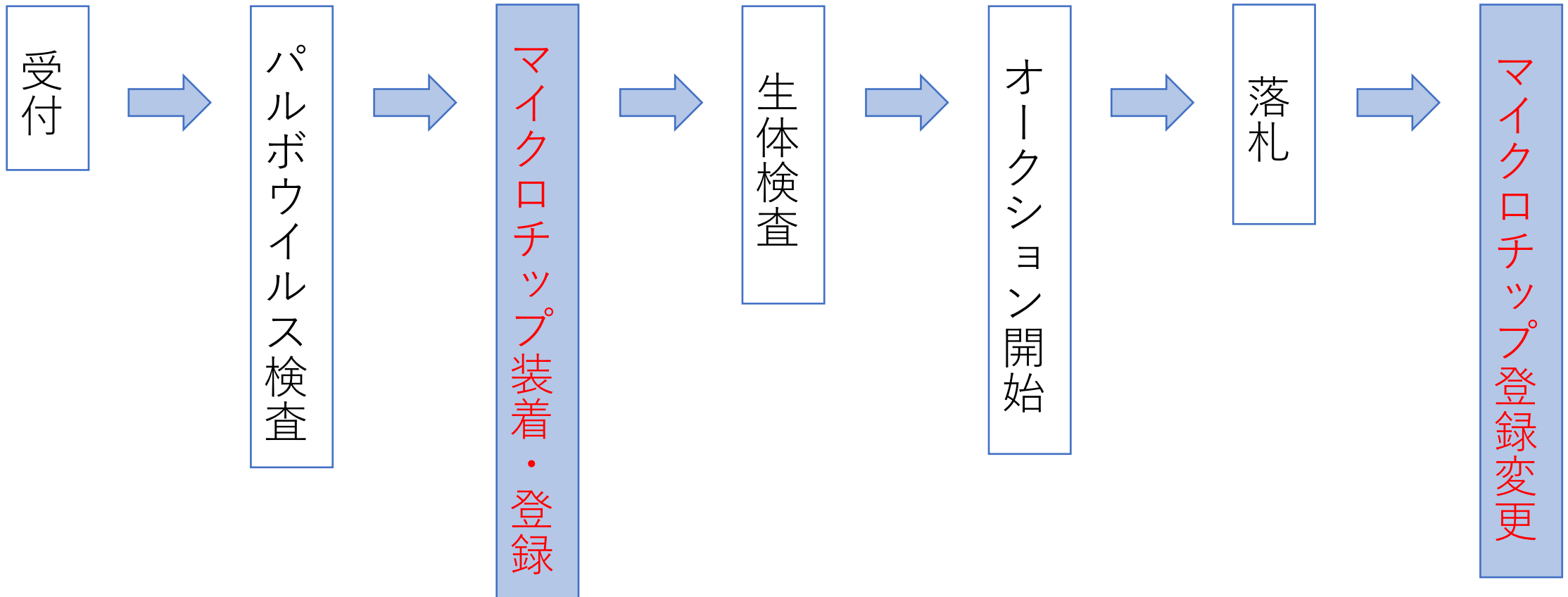
実証実験のポイント

①出品前の短い時間で全頭にマイクロチップを装着できるか

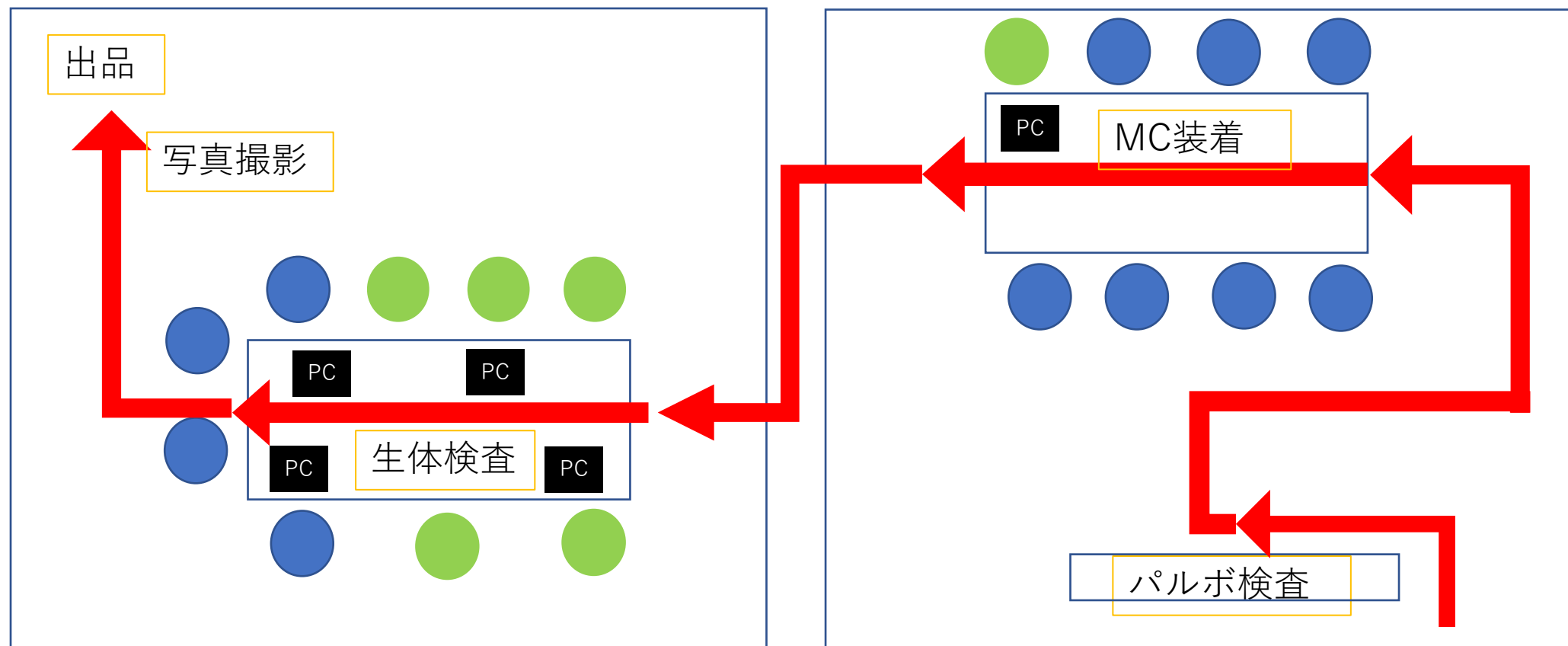
②出品生体の情報とマイクロチップ番号を結び付けて流通させることができるか

③マイクロチップ装着に関連してどのようなトラブルが発生するか

実証実験のスキーム



実証実験のスキーム

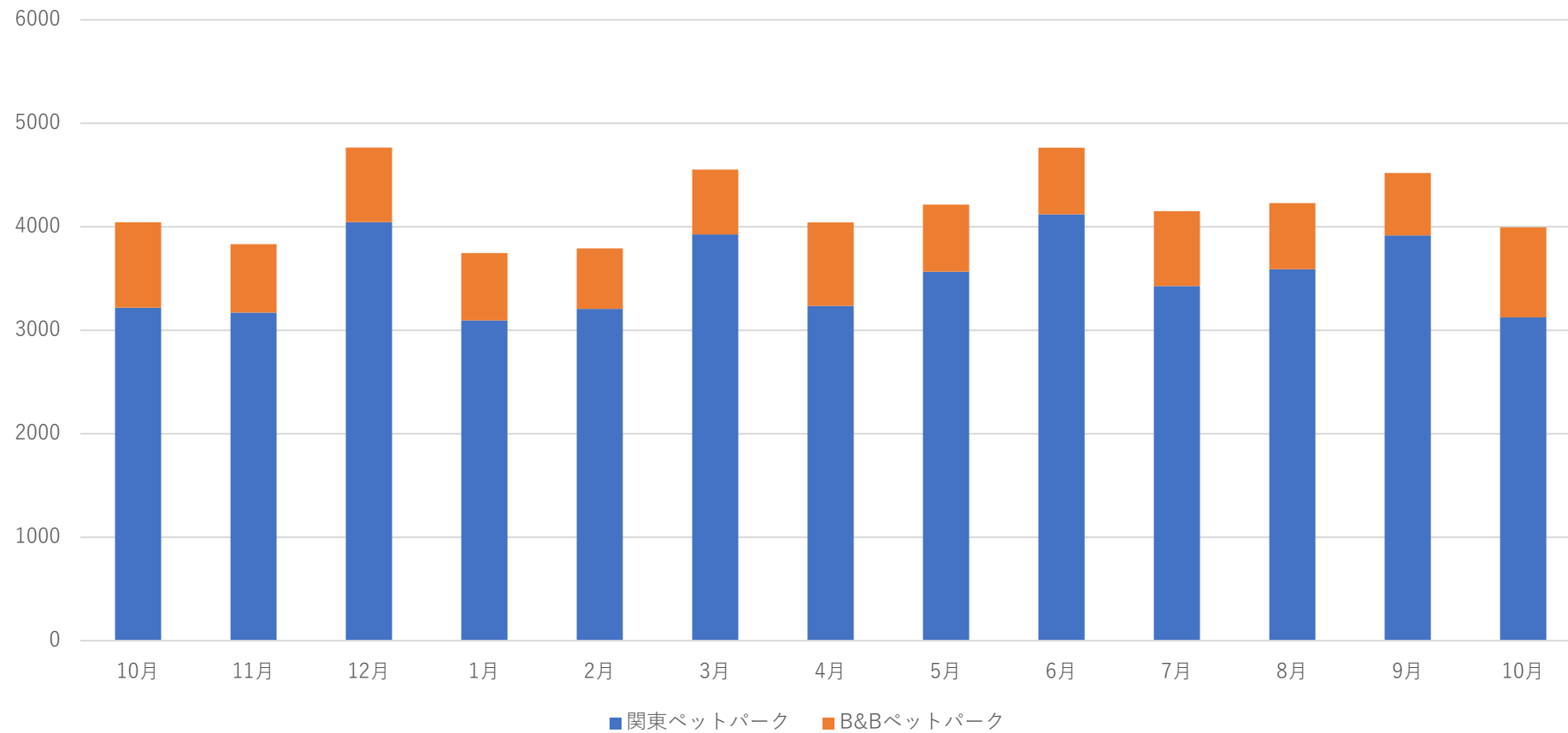


獣医師管理表

○月	獣医師A	獣医師B	獣医師C	獣医師D	獣医師E	獣医師F	合計	脱落
○日	87	228	92	87	173	173	840	2
○日	128	240	105	132	156	156	917	0
○日	108	180	80	128	—	197	693	0
○日	96	204	96	144	130	130	800	1
合計	419	852	373	491	459	656	3,250	3
平均	104.8	213.0	93.3	122.8	153	164	812.5	0.8

結果

結果（装着実績）



2020年10月開始～2021年10月末まで

累計5万4643頭

装着実績（関東ペットパーク）

Confidential

関東ペットパーク		装着頭数	獣医師数	脱落	2本装着	脱落+2本（％）	備考
10月7日	水	824	5	14	2	1.9%	2本装着6頭のうち、 2頭は摘出できず
10月14日	水	777	6	17	1	2.3%	
10月21日	水	854	6	3	1	0.5%	
10月28日	水	740	6	2	2	0.5%	
11月4日	水	758	6	4	0	0.5%	
11月11日	水	917	6	2	0	0.2%	
11月18日	水	693	6	1	0	0.1%	
11月25日	水	800	6	2	0	0.3%	1頭血腫で返品
12月2日	水	723	6	7	0	1.0%	
12月9日	水	855	6	0	0	0.0%	
12月16日	水	777	6	7	0	0.9%	3つの装着痕→減額
12月23日	水	839	6	4	1	0.6%	1本摘出
12月30日	水	820	4	2	0	0.2%	同じ獣医師に よる脱落
1月6日	水	846	6	2	0	0.2%	
1月13日	水	700	6	1	0	0.1%	
1月20日	水	735	6	0	0	0.0%	
1月27日	水	735	6	0	0	0.0%	

装着技術が安定するのに3か月必要

装着実績（B&Bペットパーク）

Confidential

B&Bペットパーク		装着頭数	獣医師数	脱落	2本装着	脱落+2本（％）	備考
10月9日	金	152	3	4	0	2.6%	
10月16日	金	180	3	4	0	2.2%	
10月23日	金	198	3	2	0	1.0%	
10月30日	金	161	3	2	0	1.2%	
11月6日	金	160	2	0	0	0.0%	
11月13日	金	163	3	0	0	0.0%	
11月20日	金	193	3	0	0	0.0%	
11月27日	金	147	3	0	0	0.0%	
12月4日	金	172	3	0	1	0.6%	摘出できず
12月11日	金	169	3	1	0	0.6%	
12月18日	金	167	3	0	0	0.0%	
12月25日	金	196	3	0	0	0.0%	
1月8日	金	198	2	0	0	0.0%	
1月15日	金	119	3	0	0	0.0%	
1月22日	金	159	3	0	0	0.0%	
1月29日	金	141	3	0	0	0.0%	

結果から見えてきた課題

- ・装着前チェックですでに装着されている生体であることに気づかず、更にマイクロチップを装着してしまうことがある
- ・獣医師の技量により、装着後にマイクロチップが脱落するトラブルなど
- ・装着時に動物が動き、針が貫通するなど穴が2箇所以上になることも
- ・装着後に出血などで返ってきてしまう
- ・獣医師の技量により、注射針を深く差しすぎるなどで神経や筋組織を傷つけてしまうことがある

課題に対する対策

- ・ 重複装着（2本装着）

⇒出荷時に売主よりマイクロチップが装着済みであることの申告を徹底させ、印をつける等わかりやすくする。
装着済み生体の情報もオークションで事前チェックしておく

- ・ 脱落

⇒装着後に生体の被毛をかき分けてリーダーで装着を確認する。
生体検査時にMC番号を確認する際にも読取りのダブルチェックを行う。
落札後の持ち帰り前にも読取り確認してもらう。
新たに装着を始めた獣医師には装着の方法を細かい点まで徹底指導が必要。

課題に対する対策

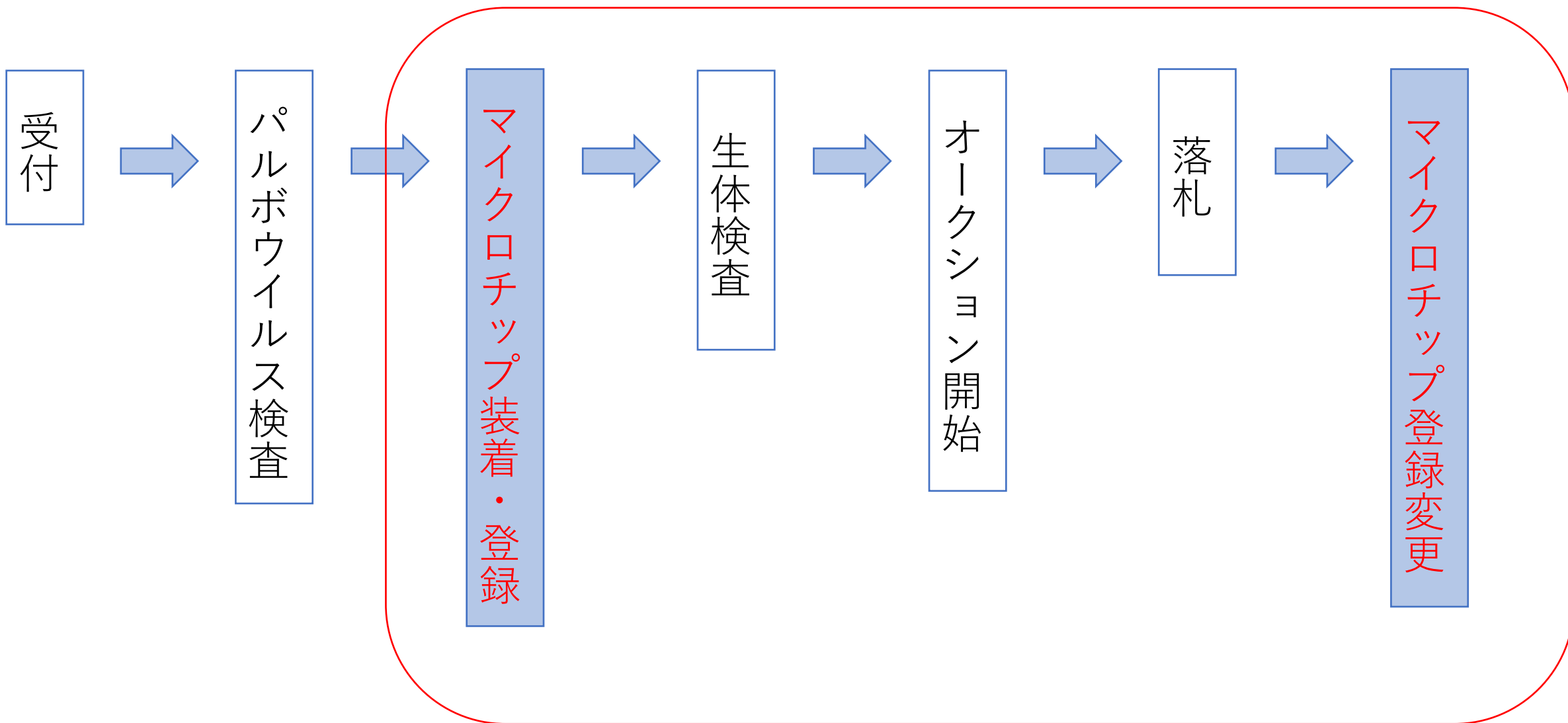
- ・ 出血

⇒ 装着後には出血がないか、止血後も血がにじんでこないかを時間をかけてチェックする
止血しづらい生体には圧迫止血だけでなく薬剤も使用して止血する。

- ・ 組織障害など

⇒ 針の挿入部位、方向の徹底確認。動く生体においては必ず別の人に保定を依頼する
装着経験が浅い獣医師の場合には、多少慣れてきても装着の方法を細かい点まで定期的に確認し指導することが必要。

データ登録の流れ



法施行に向けた提言

販売前に全頭マイクロチップの装着を行うことはブリーダーや一般ペットショップにとってハードルがかなり高く、どうしたらできるか真剣に考えなくてはならない問題である。

マイクロチップの装着におけるトラブルはかなり低い確率ではあるものではあるものの完全にゼロにすること難しい。

装着関連トラブルに関して誰がどれだけ補償するかなど、獣医師への負担が大きい。補償の枠組みなども作っていく必要がある

法施行に向けた提言

オークションでマイクロチップの全頭装着と登録を行うことで、法令順守を遂行しながらも、業者の利便性とトレーサビリティの確保を実現していく必要がある

法令順守するためにペット業界の中でオークションという場が必要であり、業界その他の団体も含めてクリーンで社会に必要な業界としてペット市場を盛り上げていきたいと考えている

ご清聴ありがとうございました